

# KAMPU BULLETIN

February  
2024  
No.54

2

KANAGAWA ASSOCIATION OF MEDICAL PROFESSIONAL UNIONS

## 構成団体

(公社)神奈川県放射線技師会 (公社)神奈川県臨床工学技士会  
(公社)神奈川県理学療法士会 (一社)神奈川県臨床検査技師会  
(公社)神奈川県栄養士会

SPECIAL  
ISSUE

## 医師のタスク・シフト／シェアに対応する医療専門職

### 巻頭言

#### 会長就任にあたって

神奈川県医療専門職連合会 会長（公益社団法人神奈川県理学療法士会 会長） 内田 賢一



令和6年1月1日に発生いたしました能登半島地震におきましては、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

令和5年6月の神奈川県医療専門職連合会（以下、神医連）の総会において、事務局を公益社団法人神奈川県栄養士会より引き継ぎました、公益社団法人神奈川県理学療法士会の内田賢一と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

東日本大震災から10年以上が経過した今、あらためて災害支援を見つめなおすことを目的に、神医連では令和5年12月23日（土）に、「大規模災害の支援制度」をテーマに県民公開講座・職能セミナーを開催いたしました。県民公開講座は、災害時に対応が置き去りにされがちな母子保健に着目し、「赤ちゃんとお母さんのための防災」について、神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科の吉田穂波氏にご講演をしていただきました。そして職能セミナーは、来るべき大規模災害発生時に必要となる避難所支援に着目し、まだ知名度が非常に低い「災害派遣福祉チーム（DWAT）の役割」について、神奈川県福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課の岩下記久氏にご講演をしていただきました。参加された皆さまからは、医療専門職者として災害時の対応について勉強になったと好評をいただきました。まさか、その1週間後に能登半島地震が発生するとは思いませんでしたが、震災後はテレビ・新聞などでDWATの活動が多数紹介されるようになりました。神医連の中には、すでに災害派遣医療チーム（DMAT）の一員として現地へ派遣されている会員がいますが、この原稿を執筆している令和6年1月23日には神奈川DWATにも正式に石川県への派遣が決定いたしました。2月からは、神奈川DWATが結成されて以来、初めて被災地に少人数ながら神医連の会員も派遣されます。ぜひ頑張ってくださいと思います。神医連は、これからも国民・県民の命と健康を守る医療専門職団体として、医師会や看護協会等、他団体とも積極的に連携し、活動してまいります。

今回、本誌は「医師のタスク・シフト／シェアに対応する医療専門職」というタイトルで特集を組みました。2024年度より、医師の労働時間短縮と健康維持・確保を目的とした働き方改革が待たなしで実行されることとなり、それと同時並行して看護師をはじめ各医療専門職種においても様々な形でタスクシフトが進んでいます。そのため、神医連を構成する5団体がそれぞれの専門性を生かしながら、どのようにタスクシフトが進められているのか、概説していただきました。本誌を介して5団体それぞれの動向を知っていただき、より連携を深めて神奈川県民の保健・医療・福祉に貢献できれば幸いです。今後とも、神奈川県医療専門職連合会の運営に一層のご協力をくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、この度の令和6年能登半島地震における被災地の一刻も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

# 医師のタスク・シフト／シェアに 対応する医療専門職

## リハビリテーション分野における医師の タスク・シフト／シェアについて

神奈川県総合リハビリテーションセンター 相馬 光一  
(公益社団法人 神奈川県理学療法士会)

理学療法士及び作業療法士法（昭和40年6月29日法律第137号）において、医師の指示の下に、理学療法を行うことと定めています。

リハビリテーションは、医師が他の医療専門職と連携して患者の治療に対して協働で行うプロセスです。これには、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、看護師などの専門家がそれぞれの専門知識とスキルを発揮し、患者の治療計画に参画します。これにより、患者が包括的で継続的な治療を受けられるようになります。具体的には医師が患者の初期評価と診断を行った後、その情報を理学療法士や作業療法士などと共有し、共同でリハビリテーションの方針を決定します。医師が患者の状態を基に治療方針を立て、医療専門職と共に患者の特定のニーズに合わせて個別化されたリハビリテーション計画を立案します。医師が患者の経過を定期的にモニタリングし、必要に応じてリハビリテーション計画を調整する一方で、医療専門職も具体的な治療やエクササイズの進捗を評価し適切な治療を提供し、他職種と連携をとります。医師が患者や家族に対して疾患管理や予防に関するアドバイスを提供し、医療専門

職が具体的なリハビリテーションに関する教育や指導を行います。

令和3年9月30日厚生労働省は、医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト／シェアが可能な業務の具体例や推進に向けての留意点について整理し、その内容を都道府県へ通知しました。「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト／シェアの推進について」のなかに「リハビリテーションに関する各種書類については、作成責任は医師が負うこととされているものについても、医師が最終的に確認又は署名（電子署名を含む）することを条件に、理学療法士が書類を記載することや、当該書類について患者等への説明や交付を行うことは可能である」と記述されました。医師の働き方改革が進む中、理学療法士が担う役割が専門性を活かし、能動的に対応できるようにタスク・シフト／シェアが推進されてきています。なお、「診療報酬等の算定については、従前どおり関係法令をご確認いただきたい」とあり、令和6年度の診療報酬改定で確認したい事項です。

# 栄養指導予約患者の到着時間における タスクシフトに向けた取り組み

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名メディカルプラザ 清水 陽平  
(公益社団法人 神奈川県栄養士会)

医療の現場でもタスク・シェア/タスクシフトが進んでいます。医師の労働時間短縮・健康確保と必要な医療の確保の両立という観点から「医師の働き方改革」に関する議論に付随する形で、医療専門職種においても同様の取り組みが推進されてきています。

当院は、高度急性期病院である海老名総合病院に隣接する大規模クリニックです。一日平均外来患者数は846.1名(2023年10月)で、地域住民のかかりつけ医機能と海老名総合病院の入退院の受け皿としての機能を併せ持っています。栄養科の主業務は外来栄養食事指導で、糖尿病を主とした生活習慣病だけでなく小児肥満や体重増加不良に対する栄養指導を行っています。2023年度上半期(4~9月)は3,114件で1か月あたり519件でした。このように日々栄養指導を行っている中で感じていた問題点を、タスクシフトにより解決できたのでその取り組みを紹介します。まず、タスクシフト前の栄養指導の問題点を示します。(図1)

患者の待ち時間増や受付職員、管理栄養士のストレスにつながっていました。そこで、この問題解決のためのミッションを「栄養指導予約患者の到着確認時の電話連絡をゼロにする」として、医事課、株式会社ソラスト、情報システム部、栄養科の四者で取り組みました。実施内容は①電話に変わる連絡方法の確立②現行運用における実地調査(任意の1週間);具体的には、受付担当者が行う「患者到着→受付確認→管理栄養士への電話連絡→患者案内」までの所要時間と「栄養指導実施中にかかってきた患者到着の電話回数」としました。①は情報システム部より譲り受けた未利用のタブレット端末とし、本体購入費用無く月額利用料と付属機器の購入費用のみで済みました。新たな連絡方法を示します。(図2)

## 栄養指導予約患者の到着確認時の電話連絡をゼロにする

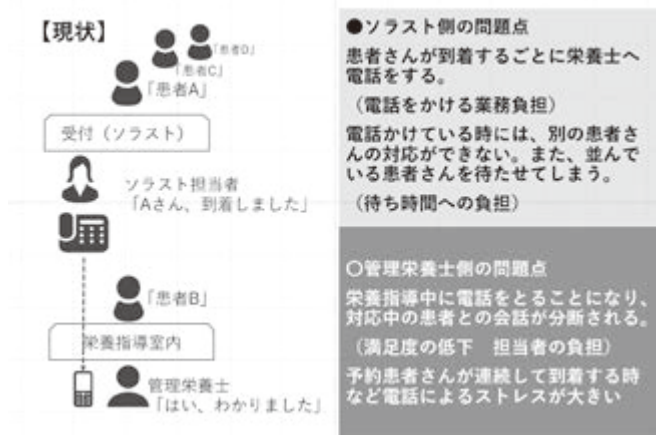


図1 栄養指導における問題点

図1のように、「電話」を連絡手段に用いていたことから、



図2 栄養指導の新たな連絡方法

②は、1件当たり31.2秒でした。また、電話回数は56件(全体の42.7%)でした。①②の結果をもって院内会議でプレゼンテーションを行い、2023年7月に導入が決まりました。導入後効果は、①は20.1秒(-11.2秒)へ短縮できました。また、電話回数はゼロ(止むを得ない内容を

除く)になりました。実施者からは、「電話が減ってよかった」「電話が繋がるまで担当者へ連絡をしていたので、その負担が減った」という意見や「タブレット端末を立ち上げるまでに時間がかかる」「キャンセル連絡の際も電話をなくしたい」などの意見が寄せられました。

今回我々は、栄養指導予約患者の到着確認時の連絡手段を電話からタブレット端末にシフトすることで、関連職種の負担軽減を実現できました。今後もこうしたタスクシフトを積み重ね、より良い職場環境づくりに努めたいと思います。

## タスクシフト／シェア ～変革する診療放射線技師～

川崎市立川崎病院 放射線診断科 引地 利昭  
(公益社団法人 神奈川県放射線技師会)

タスクシフト／シェアを推進し、医師の負担を軽減しつつ、医療関係職種がより専門性を活かせるよう各職種の業務範囲の拡大等を行うための法改正が行われ、令和3年7月9日医政発0709第7号「臨床検査技師等に関する法律施行令の一部を改正する政令等の公布について」が厚生労働省医政局長より発出され、診療放射線技師の業務範囲が拡大されました。

- (1) 核医学検査のために静脈路に放射性医薬品を投与するための装置を接続する行為、当該放射性医薬品を投与するために当該装置を操作する行為並びに当該放射性医薬品の投与が終了した後に抜針及び止血を行う行為
- (2) 静脈路に造影剤注入装置を接続する際に静脈路を確保する行為
- (3) 動脈路に造影剤注入装置を接続する行為（動脈路確保のためのものを除く）及び造影剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為
- (4) 下部消化管検査のために肛門に挿入したカテーテルから注入した造影剤及び空気を吸引する行為
- (5) 上部消化管検査のために鼻腔に挿入されたカテーテルから造影剤を注入する行為及び当該造影剤の注入が終了した後に当該カテーテルを抜去する行為



日本診療放射線技師会 HP より引用  
[https://www.jart.jp/activity/lifelong\\_study.html](https://www.jart.jp/activity/lifelong_study.html)

### 技師会の取り組み～告示研修の開催～

上記の追加された行為を行おうとするときは、あらかじめ、厚生労働大臣が指定する研修の受講が義務付けられました。昨年度より診療放射線技師の資質向上と医療安全の確保のため、「告示研修（令和3年厚生労働省告示第273号研修）」を日本診療放射線技師会主催、各都道府県技師会が実技研修を開催実施しています（表.1）。「告示研修」ではオンデマンドでの「基礎研修」と、対面で行う「実技研修」を受講します。昨年度神奈川県内では「実技研修」を8回開催し、363名の方が研修を修了しています。また今年度

は12月末で367名の方が受講され、年度内に400名以上の方が所定の研修を修了する予定となっています。

告示研修申込者数	29,105名	51.2%
基礎講習修了者数	21,839名	38.4%
実技研修修了者数	11,834名	20.8%

表1. 受講者数（令和5年3月31日現在）  
日本診療放射線技師会 HP より引用  
[https://www.jart.jp/activity/lifelong\\_study.html](https://www.jart.jp/activity/lifelong_study.html)

#### タスクシフト／シェアに向けて

厚生労働省が公表している、「医師の働き方改革を進めるタスクシフト／シェアの推進に関する検討会」の議論のま

とめでは、推進課題として「意識」、「技術」、「余力」の3つを挙げています。現場でも“意識の変化”、“人材育成”、“人手不足、他の職種へのタスクシフト／シェア”と共に、“患者さんの安全の確保と責任の所在”にどう対応していくかが大きな課題となっています。さまざまな課題を解決し、効率的に新たな業務を導入することで、タスクシフト／シェアを推進できるように、今後も職能団体である技師会の使命として実技研修の開催と共に各施設での取り組み状況等、様々な情報を発信していければと考えています。新たな業務拡大により医療（社会）への貢献と職域の確保は我々にとって大きな変革のチャンスでもあります。この変化が将来の診療放射線技師にとって「やりがい」や「モチベーション」の向上につながることを切に願います。

## タスク・シフト／シェア講習会（検査技師会）の取り組み

横浜市立大学附属病院 佐藤 泰之  
（一般社団法人 神奈川県臨床検査技師会）

今回、医師の働き方改革に関する検討会で「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改定する法律」の成立により、臨床検査技師等に関する法律の一部が改正され令和3年10月1日から施行されることになった。

そこで、令和3年11月に講習会開催にあたり当時の当会理事20名が実技講習会を受講し日本臨床検査技師会から実務責任者として任命され講習会開催のため会場、各セッションの講師等の準備を進めた。

開催にあたり講師の先生を探す事にとっても苦慮し現在でも講師を依頼できる先生が限られ日程調整が難航することがあります。また初回時はコロナ禍の状況での講習会開催の準備を進め日程等も決定し開始案内も配信していましたが、感染状況を鑑みやむなく中止をしたこともありました。その後は、感染対策に注意し令和3年4月に第1回講習会し、その後不定期ですが、現在まで1回60名の定員で計

8回開催し、講習終了者は約500名になりました。しかし、基礎講習会終了者が約600名おり指定講習会受講待ちの会員が多くいるのが現状です。

講習会では、セッションを3に分けコンテンツ1で静脈路確保、造影剤注入等そして成分採血等とし講師2名で、コンテンツ2は持続皮下グルコース検査と吸引痰検査のための吸引採取行為で講師2名、コンテンツ3は直腸肛門機能検査、内視鏡検体採取等、誘発電位等で講師1名の体制で実施しましたが、コンテンツ1については講師は同じ先生が担当する様になりまた実務委員も実技講習のサポートで出来る様になったので、現在はコンテンツ1の講師は1名で実施しています。

講習会の実務委員を担当しての感想ですが、静脈路確保、造影剤注入等そして成分採血等のセッションでは、日ごろ多くの臨床検査技師が採血業務を行い患者に針を刺す行為には慣れていますが、静脈確保などの穿刺行為は採血とは

手順が異なり戸惑いを隠せないのが現実であった。

持続皮下グルコース検査は、実際に患者に簡易血糖機等の指導を行っているので指導法の再習得として参考になった。また喀痰吸引は、未知の行為であり行為そのものが難しく苦慮する分野である。

直腸肛門機能検査、内視鏡検体採取分野も一部の臨床検査技師は内視鏡検査補助の業務を行っているが、受講生の

多くが実際に補助を行うには、手技の習得に時間をかけ習熟度を上げる必要があると感じた。

各セッションも受講者が自施設で改めての医師、看護師等からの指導が必要となる内容と考えた。

最後に今後、多くの会員が受講できるように開催をしていきたいと考えます。

## 連合会とシン・臨床工学技士が協働し 医師の働き方改革に臨む社会貢献

湘南藤沢徳洲会病院 臨床工学技士 及川陽平  
(公益社団法人 神奈川県臨床工学技士会)

働き方改革とは「それぞれの事情にあわせて多様な働き方を選択できる社会」を実現するための取り組みであり、2019年から関連する法律が順次施行されている。医療分野では、医師の時間外労働に対して上限が設けられることになり、2024年4月から医師の働き方改革が予定されている。その為、医師に偏在している業務の一部を他の医療専門職へ移管したり、共同実施したりすることで医師の負担を軽減し、より良い診療を維持する為に2021年10月に職種間での協力のもと法改正が施行され、職種別に新たなタスクシフト／シェア業務が示された。拡大された業務は厚労省が指定する告示研修を履修することで実施が可能となる。臨床工学技士においては主に手術室が拡大された業務となり「内視鏡用ビデオカメラを保持・操作する行為」（以下、スコープオペレータ）が実施可能となった。これは日本全体が社会問題としている外科医不足対策の一助と成り得ている。当院では2020年10月からスコープオペレータ業務を開始。2021年の総件数は110件であったが、2022年は40件と減少した。理由は、病院長による清潔介助業務への参入指示が影響したことにより清潔介助

業務への配置が優先した。医師以外にも病院での人手不足や長時間労働が大きな問題となっているのは看護師も同じであり、医師から看護師へタスクシフト／シェアを進めるには看護師の業務も見直さなければならない。手術室では、看護師不足の影響により手術遅延が発生しており、病院として大きな問題となっていた。2021年は3名の専任臨床工学技士を配置し、566件の清潔介助業務を遂行。2022年は前年の実績が認められ、6名体制とし1318件の清潔介助業務を遂行した。その内、最も多く参加した診療科は形成外科360件（最多69件、皮膚腫瘍摘出術、露出部2cm~4cm）、眼科334件（最多334件、水晶体再建術眼内レンズ挿入、その他）、整形外科329件（最多120件、骨折観血的手術、上腕・大腿など）の順であった。少子高齢化の影響で看護師全体の雇用数は不足しており、2025年には神奈川県内での看護師数が必要とされる数から約3万人が不足するとの厚労省調査結果もある。医師・看護師不足を補う為には、これまで以上に他職種間との連携を深め、神奈川県医療専門職連合会と共に県民の医療を守るためにこれからも努力していきたい。

## 県民公開講座・職能セミナー報告

2023年12月23日に横浜情報文化センターにて、神奈川県医療専門職連合会の研修会として、「災害対策／知っておきたい支援制度」をテーマにした県民公開講座と職能セミナーの2部構成で開催されました。

### ・県民公開講座 「赤ちゃんとお母さんのための防災」

講師：吉田 穂波氏

(神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科)

吉田氏は、災害時の妊産婦と乳幼児のケアに焦点をあて、具体的な防災策や避難時における配慮事項をわかりやすく解説。参加者は赤ちゃんとお母さんの安全な避難と、災害時に起きるリスクについて理解を深めました。

### ・職能セミナー 「災害派遣福祉チーム (DWAT) の役割」

講師：岩下 記久氏

(神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 地域福祉課)

岩下氏からは、介護を要する高齢者や障がい者、難病患者、子供や乳幼児、妊産婦など災害時要配慮者への支援に焦点をあてました。保健医療と福祉の連携や、神奈川県において令和3年度に設置されたDWATの組織された経緯から今後の展望について、丁寧に説明いただきました。参加者は災害時の福祉支援や福祉避難所に関する必要な知識を得ることができました。

本研修会では、参加者が災害への備えや支援体制の整備について具体的な情報を得るとともに、今後の医療専門職の役割についての理解を深める良い機会となりました。

## 総会報告

### ●2023年度定例総会

2023年6月21日(水) 於横浜情文センター、6階情文ホール

内 容：

- ・2022年度事業報告・決算が提示され承認された
- ・2023年度役員改選に関する報告があり承認された
- ・2023年度事業計画案・予算案が提示され承認された

総会時特別講演

テーマ「多職種を巻き込んだ救急医療DXの現在地」

講師：TXP Medical 代表取締役医師 園生 智弘氏

# 2023 年度活動報告

## ・2023年11月12日(日)

象の鼻パーク(横浜市中区)  
ハローよこはま2023 ブース出店

## ・2023年12月23日(土)

横浜情報文化センター6階 情文ホール「災害対策 知っておきたい支援制度」

### 県民公開講座

テーマ:「赤ちゃんとお母さんのための防災」

講師:吉田 穂波氏(神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科)

### 職能セミナー

テーマ:「災害派遣福祉チーム(DWAT)の役割」

講師:岩下 記久氏(神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 地域福祉課)

### 後援

- ・理学療法フェスタ(2023年7月1日~8月31日)
- ・第42回神奈川県病院学会(2023年10月18日)
- ・第6回神奈川県臨床工学学会(2023年11月12日)
- ・第40回神奈川県理学療法士学会(2024年2月4日)
- ・第20回神奈川県放射線学術大会(2024年2月25日)

### 協力

- ・2023年10月18日  
ホテルメルパルク横浜  
第42回神奈川県病院学会 運営スタッフ

## 編集 後記

令和6年能登半島地震により、多くの方々が犠牲になられ、また被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復興と、被災者の方々への温かいサポートをお祈り申し上げます。

コロナが5類に引き下げられ、世の中の制限がなくなりつつ中、医療現場は感染対策を継続し、人々の命と生活を守っています。変異株の流行により感染者が第10波となり終わりの見えない状況です。早期のコロナ禍の終焉を願っております。

今回のテーマは医師の働き方改革が進む中、担う医療専門職の役割について特集しました。質の高い医療の提供のため、各専門職の取り組みは興味深いものでした。

令和6年度は診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の同時改定になり、診療報酬はプラス改定となり、医療専門職の処遇改善も盛り込まれました。様々な変革の中、医療・福祉の向上に寄与するため団体としての活動をしていきたいと思っております。

(理学療法士会 相馬)

### ● 広報委員会

委員: 相馬 光一	(公社)神奈川県理学療法士会	<a href="https://pt-kanagawa.or.jp/">https://pt-kanagawa.or.jp/</a>
亀山 亜希夫	(公社)神奈川県栄養士会	<a href="https://www.kana-eiyo.or.jp/">https://www.kana-eiyo.or.jp/</a>
武笠 祐士	(公社)神奈川県放射線技師会	<a href="http://kart21.jp/">http://kart21.jp/</a>
錦織 恒太	(公社)神奈川県臨床工学技士会	<a href="http://www.kanarinko.com/">http://www.kanarinko.com/</a>
永井 秀一	(一社)神奈川県臨床検査技師会	<a href="http://www.jinringi.or.jp/">http://www.jinringi.or.jp/</a>

